

去る 7/13 夜、NHK スペシャル「こども輝け命 心の二人三脚」が放送された。いわゆる自閉症（僕は未だ、何をもって自閉症というのか、さっぱり解らないが...）といわれる生徒のために作られたある技能高等専修学校での、自閉症といわれる生徒と、他の生徒がバディ（相棒、仲間）を組んで学校生活を過ごす様子を、3組のバディを1年間追いつけたものであった。他の生徒とは、不登校の経験ある生徒、いじめにあい寡黙に陥った生徒等で、他の学校ではいわゆる問題児といわれたであろう生徒である。バディを組む生徒同士が、互いを認め、輔け合い、支え合い、寄り添う中で、互いに成長する姿は感動的であり、また教育活動とは何か、共に生きるとはどういうことか等、色々考えさせられた。

日頃、教師として、いわゆる自閉症児の教育活動に苦悩しつつチャレンジしているメル友に、「参考になるかもしれないから、番組を見たら？」と紹介した。番組終了後、直ぐに以下のメ - ルが届いた。

「紹介していただいた NHK スペシャル、見ました。こういった取り組みをしている学校があることは、全く知りませんでした。驚きました。そして障害があるなしに拘わらず、人と係わり合うことが楽しい、嬉しいと思えるようになることは、人をこうも変えていくし、自分自身が変わらなくては係わり合うことの嬉しさにも気付けないかもしれないと思いました。どちらが先ということではなく、切り離せないものなのだろうと思います。私も番組の子供達のように変わらなくてはと思いました。ありがとうございました。」
僕も、早速以下のように返信した。

「互いの存在をありのまま認め、寄り添い、係わり続けるという、教育活動の本質というか、人が生きて行くことの本質でもありますよね。一方、恐らくこの放送を見た教師の多くは、『あの学校だから出来る。理解ある校長だから出来る』とかいう他人事的言い方をするでしょうね。そうではなく、ああした活動を出来るようにしてきた先生方の努力、エネルギー、チャレンジ精神はそうとうなものだったと想像できます。しかし、その過程で先生方が生徒をありのまま受けとめ、寄り添い続けた積み重ねだと思います。要は、教師一人一人が、生徒一人一人の教育活動に向き合い、どう苦悩し行動するかですよね。迷わず、あなたの信じる教育活動を実践してくださいね。」